

## 営農・栽培管理システムの導入による水田農業の見える化（第2回アグリテック活用推進セミナーより）

令和6年2月2日（金）に、宮城県松島町の松島町文化観光交流館を会場に、今年度第2回目のアグリテック活用推進セミナーを開催しました。

今回は、「営農・栽培管理システムで、水田農業の見える化を」をテーマに、講演と参加企業による展示会を行いました。



写真1 セミナーの様子

## ○ 営農・栽培管理システムとは

営農管理システムは、営農活動のデータをパソコンやスマートフォンなどで記録・管理し、見える化できるシステムです。製品によって異なりますが、ほ場地図、作付計画（品目・品種）、作業日誌、収量・品質などを入力・確認・管理することができます。

システムの中には、GAPIに対応したものや、農機と連携してほ場や時間などの作業記録を取得できるもの、スマートフォンでも確認でき、データを現場で確認できるシステムもあります。

また最近では、衛星画像や1kmメッシュ気象データなどをもとに、作物の生育診断や生育予測、病害虫の発生予測など栽培管理を支援するシステムや、可変施肥のための施肥マップを作成するシステムも開発されています。

〔様々な営農・栽培管理システム〕

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html>  
（農水省HPリンク）



## ○ 講演

## 「営農・栽培管理システムの現状と効果的な活用」

講師：農林水産省大臣官房政策課技術政策室 課長補佐 村松直 氏

## 1 営農・栽培管理システムの必要性

今後の農業経営では、大規模化、分散農地の管理、従業員との情報共有などが必要になる。営農管理システムでは、これらをデータ化して見える化し、効率的に営農管理、情報共有が可能になる。

気候変動による生育の変化に対応するためには、生育診断システムなどが有効。Jクレジットのための中干し延長の作業記録を出力できるものもある。

## 2 スマ農成果ポータル

農研機構のスマ農成果ポータルサイトには、様々なスマート農業の実証結果や導入効果と一緒に、導入に向けたチェックリストが掲載されている。導入前に、導入効果があるのかを確認してほしい。

〔スマ農成果ポータル〕

[https://www.naro.go.jp/smart-ogyo/seika\\_portal/gijutsu/portal09.html](https://www.naro.go.jp/smart-ogyo/seika_portal/gijutsu/portal09.html)  
（農研機構HPリンク）



## 3 企業の垣根を超えたデータ連携

気象や地図、生育予測などのデータを、連携基盤（WAGRI）に集約し、各企業がこのデータを活用してサービスを提供できる仕組みがある。

オープンAPIの取組では、別メーカーの農機の作業情報を、1つの営農管理システムで取得して管理できるようになる。



写真2 村松氏の講演

## ○ 展示会

参加企業8社が各種システムを展示し、来場者がそれぞれ気になったブースを訪れ、システムの質問や導入に向けた相談を行いました。



写真3 展示会の様子①

〔紹介したシステムと出展企業（50音順）〕

- ・アイガモロボ等（株式会社井セキ東北）
- ・アグリノート（ウオーターセル株式会社）
- ・KSAS（クボタアグリサービス株式会社）
- ・GeoMation（株式会社日立ソリューションズ東日本）
- ・スマートアシスト（ヤンマーアグリジャパン株式会社）
- ・天晴れ（国際航業株式会社）
- ・ザルビオフィールドマネージャー（全国農業協同組合連合会）
- ・SAKUMO、AgriLook（株式会社ビジョンテック）



写真4 展示会の様子②

営農・栽培管理システムは、営農活動の見える化や役員・従業員との情報共有、経営継承に向けた営農状況の引継ぎなど、これからの農業経営に有益な技術です。農業経営に、積極的な導入・活用を検討してみたいかがでしょうか。

# スマート農業の普及に向けた県からのお知らせ

## ①「宮城県RTKシステム」の利用申し込み

### 【申込期限】

毎月20日を締切とし、順次ID・パスワードを発行します。

### 【利用対象者】

農業者、農業法人、農業関連企業等

### 【基地局設置場所】

県内7か所(県ウェブサイト参照)

### 【配信方式】

Ntrip方式(ネット回線からデータ配信)

### 【負担金】

ID発行数 年間負担金(税込み)

1台目のみ 20,000円/台

2台目以降 10,000円/台

利用期間は、4月1日  
から翌年3月31日ま  
でになります。  
(年度単位)

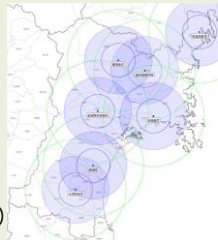
### 【申込方法】

県ウェブサイトから要領や様式をご確認いただき、下記の  
申込先へ提出してください。

※県ウェブサイト: 宮城県RTKシステムの利用について

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/rtk-system.html>)

【申込先】(公社)みやぎ農業振興公社(郵送又は提出)  
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
(県仙台合同庁舎9F)  
TEL:022-342-8380(RTK受付)

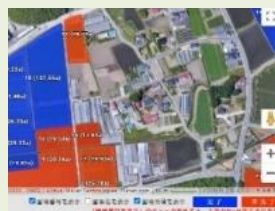


## ② アグリテックの活用をお考えの方へ

### みやぎアグリテックアドバイザー派遣のご案内

- アグリテックの新規導入や、効果的な活用・改善に関する課題解決のために、専門家や先進農業者などの助言・指導を行うアドバイザーを派遣します。
- アドバイザー派遣にかかる費用は無料です(県が負担します)。
- 土地利用型農業の他、施設・露地園芸や畜産分野の課題でも派遣できます。
- アグリテックの活用についてお悩みの方や、今後の導入を検討している方は、是非ご活用ください。

### 【指導・助言の対象となるアグリテックの例】



経営管理システムの活用



スマート農機の有効活用

### <利用方法>

- お近くの農業改良普及センターにお問い合わせください。
- アドバイザーの派遣には、日程調整に時間を要します。利用の際は、お早めにご相談ください。

## ③「スマート農業コンシェルジュ」がアグリテックの導入や活用をワンストップ支援窓口としてサポートします

宮城県では、アグリテックの新規導入から有効な活用に向けたサポートを行っています。様々な支援があるなか、農業者の個々の生産・経営状況に応じて支援を上手に活用していただくために、令和5年4月から、県農業振興課に「スマート農業コンシェルジュ」を配置して、活動を行っています。

### 【スマート農業コンシェルジュの活動】

- スマート農業技術に関する個別相談、御用聞き
- 普及センターと連携した現場指導
- 「宮城県RTKシステム」の利用案内
- スマート農機のデモ利用案内  
(農業大学校にリモコン草刈機等を配置予定)
- 各種研修会への誘導
- 「みやぎスマート農業推進ネットワーク」の案内

アグリテックの導入・活用や、RTKシステムの利用など、お気軽にお問合せください。

### 【連絡先】

宮城県農政部農業振興課  
スマート農業コンシェルジュ 中鉢 正信  
TEL:022-211-2833  
Mail: chuubachi-ma245@pref.miyagi.lg.jp



## ④「みやぎスマート農業推進ネットワーク」の会員募集

宮城県では、スマート農業の普及拡大に向けて、農業者と産学官による情報交換と協働の場として、「みやぎスマート農業推進ネットワーク」を設置しています。

会員には、農業者や農機メーカー、ICT企業、関係団体、自治体など、230人・団体が登録しています(R6.1月現在)

### 【活動内容】

- 会員同士の情報交換・情報共有
- セミナーや現地実演会の開催
- 情報収集

### 【対象者】

スマート農業に関心がある農業者、農業機械・ICT企業、農業関係団体、その他ネットワークの趣旨に賛同する方

### 【会費】 無料

### 【加入申込】

県ウェブサイトから申込書をダウンロードいただき、下記の申込先へ提出してください。

※県ウェブサイト: 宮城県RTKシステムの利用について

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/smart.html>)

【申込先】 宮城県農政部農業振興課普及支援班  
〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1  
TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839  
E-mail: [smart\\_miyagi@pref.miyagi.lg.jp](mailto:smart_miyagi@pref.miyagi.lg.jp)